

平成25年度事業計画書・収支予算書

自 平成25年4月1日
至 平成26年3月31日

一般財団法人日本色彩研究所

I 事業計画書

1. 本年度は以下の研究を実施する（詳細を4.資料に示す）

- (1) 白色光源の演色性評価方法の開発
- (2) Hue-Tone システムの基準値の設定方法の開発
- (3) 詳細版ヒュートーンシステムによる色彩計画ツールの制作
- (4) 社会人教育「デザイン視点によるプロダクトマネジメント」の運用に関する研究
- (5) CG による製品の外観の限度見本作成とその利用に関する研究
- (6) 海外の色彩情報に関する調査分析
- (7) ファッションの動向に関する調査

上記の研究成果は、所内研究発表会を開催して報告する。

2. 本年度は以下の事業を実施する

(1) 産業界、教育界との協力

官公庁、教育界、産業界からの受託研究業務として、次の事業を実施する。

- (a) 標準化事業：JIS 準拠標準色票第 10 版の仕様検討及び変退色・汚染用グレースケールを製作する。また、Hue-Tone システムによる色票集の開発を進める。
- (b) 調査研究：LED の演色性評価方法の開発、各種製品色の提案、色彩調査を実施する。
- (c) 技術指導：色彩の産業応用に関する技術指導及び製品開発の指導・監修を実施する。また、色彩教育用教材などの色彩用具・資料の開発を進める。
- (d) 測色試験：標準白色板の校正試験等依頼試験を実施する。
- (e) 講座会：定期開催の色研セミナー(2.参照)及び企業への講師派遣を実施する。
- (f) 色票依頼：各種用途の色票製作を実施する。

なお、(a)～(e)の事業は、公益目的支出計画の継続事業として実施する。

(2) 講習会、色彩講座の開催

定期開催の色研セミナーとして、下記の専門講座を開催する。

色彩管理士認定講座（第8期）	1回
色彩心理、カラーデザイン関連講座	10回
景観色彩計画関連講座	1回
色彩工学・技術関連講座	5回

(3) 定期刊行物及び広報等の活動

機関誌「色彩研究」Vol.60 No.1、No.2の発行

広報誌「COLOR」No.160、No.161 の発行

メールマガジンの発行

ホームページ <http://www.icri.jp/> 更新年 4 回程度を予定

(4) 学会及び論文発表

当研究所紀要のほか、日本色彩学会、照明学会、日本人間工学会、デザイン学会、日本建築学会、日本心理学会、日本プラント・ヒューマンファクター学会、人類働態学会などでの大会発表、論文投稿を積極的に進める。

3. 処務関係

本年度は以下の会合を予定している。

(1) 評議員会 1 回開催

(2) 理事会 2 回開催

4. 資料（研究項目概要）

(1) 研究項目 白色光源の演色性評価方法の開発

主任研究員 小林信治、小松原仁

研究着手年月日 平成23年4月1日

協力機関 日本照明委員会 CIE TC 1-90

白熱電球や蛍光灯と置き換えるLED光源の実用化に伴って、その性能評価方法が検討されている。蛍光灯とは異なった分光特性を持っているLED光源の演色性は、CIE 13.2 (JIS Z 8726) で規定されている忠実性に基づく演色評価数で評価することが適切でないという意見があり、CIE-TC 1-69では、白色LED光源を含めた新しい演色性評価方法の開発を進めている。TC-1-69は、演色性の評価を忠実性に基づいた評価方法と好ましさに基づいた評価方法を別々に定めることが必要であるとし、新たに忠実性に基づいた評価方法を検討するTC 1-90を設置した。平成23年度から、蛍光灯及び白色LED光源の演色性を、両眼隔壁法を用いて調査し、知覚実験データを収集している。本年度も知覚実験データの収集を継続するとともに、忠実性を評価する試験色の選定方法について検討する。

(2) 研究項目 Hue-Tone システムの基準値の設定方法の開発

主任研究員 小林信治

研究着手年月日 平成 24 年 4 月 1 日

Hue-Tone システムとして普及している PCCS は、200 色程度までの色票集が利用されている。しかし、色彩設計の実務家からは色数が少ないという指摘を受けている。そこで、色知覚モデルを用いて Tone の心理物理的特性を明らかにし、Tone を細分化して基準値を設定する客観的な設定方法を開発した。この方法を特許申請するための検討を進める。

(3) 研究項目 詳細版ヒュートーンシステムによる色彩計画ツールの制作

主任研究員 赤木重文

着手年月日 平成 25 年 4 月 1 日

昨年度は、詳細版ヒュートーンシステム NOCS（仮称）についてそのアルゴリズムを確立し、それに基づいた色彩設計や教材の運用の構想を策定した。

本年度は、実用的なツールの数々を試作し、企業モニターなどによる評価を行い、製品化を進める。

協力機関：株式会社中川ケミカル

(4) 研究項目 社会人教育「デザイン視点によるプロダクトマネジメント」の運用に関する研究

主任研究員 赤木重文

着手年月日 平成 25 年 4 月 1 日

前年度は、文部科学省委託事業のプロジェクトで、社会人教育「デザイン視点によるプロジェクトマネジメント」のカリキュラム開発を行った。本年度はこのカリキュラムの運用計画として「追加検証講座によるカリキュラム修正」「カリキュラム運用のシステム検討と確立」「第三者評価等の制度整備」「学び直しプログラムの検討」などの課題について研究し、開発したカリキュラムの運用に具体的な道筋をつける。

(5) 研究項目 CGによる製品の外観の限度見本作成とその利用に関する研究

主任研究員 江森敏夫

研究着手年月日 平成 25 年 4 月 1 日

住宅設備機器や建材の表面には、製造過程においてさまざまな不具合が発生する。そのような不具合を検出する一般的かつ効率的な方法として、検査員が欠陥品を限度見本として比較する方法がある。欠陥品による限度見本は意図的にコントロールして作成することはできないため、統一した基準を定めにくい。そこで、欠陥品などの画像から画像処理により欠陥パターンを抽出し、それを CG で加工することで、欠陥のパターンを段階的に変化させたスケールを作成し、限度見本とすることが考えられる。平成 22 年度に文部科学省委託事業のプロジェクトの一環として、株式会社 LIXIL と共同で浴槽に見られる 1 例の欠陥について限度見本スケールを試作した。その試験運用の結果、良品・不良品の判断基準の統一が図られるとともに、作業員のスキルの統一に有効であることが確認できた。

本年度は、さらにいくつかの欠陥パターンについてのスケール作成を試み、その妥当性や有効性を検証していく。

協力機関：株式会社 LIXIL 住設・建材カンパニー

(6) 研究項目 海外の色彩情報に関する調査分析

主任研究員 名取和幸

着手年月日 平成 25 年 4 月 1 日

企業の海外進出が一層強まる中、海外での色やデザインに関する消費者意識や生活習慣の入手と交文化的な分析は、学問的にも実務的にも重要性が増している。そこで、市場や生産拠点として重要視されている国々を対象とし、色やデザインに関する人々の意識や市場の傾向などの研究を進めることにする。今年度は、日本への留学生に対して、色使いについての自国と日本との相違、自国での色に関する慣習などについて聴き取り調査を行う。また、そうしたテーマに関係する文献・資料も収集し整理する。それらの結果も参考に調査項目を検討し、色彩好悪等についての海外調査の実施を目指す。

(7) 研究項目 ファッションの動向に関する調査

主任研究員 赤木啓子

研究着手年月日 平成 25 年 4 月 1 日

日本ファッション協会では、東京の主要 5 地点において流行を先取りしていると思われる若者のファッション色を毎月測定し、対象者に対して、好きな音楽、好きなブランドなどの聞き取り調査を実施している。この結果は JFA の HP「スタイルアリーナ」で公開しているが、そのサイトへのアクセス数は国内外を問わず、非常に高い値を示している。現状のスタイルアリーナでは、優れたファッションの写真公開とその特徴が示されているものの、色の配色や属性との関係、地点における差等について、統計的な処理は行われていない。

そこで、これまで JFA が実施してきた調査データを提供してもらい、データ処理を施すことで 5 地点におけるファッション動向やその特徴、属性との関係について明らかにすることを目的とする。

協力機関：日本ファッション協会